

第4 2回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成27年9月25日（金） 15：30－16：45

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、青木委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

松本内閣府大臣政務官、石原内閣府審議官、小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

冒頭、松本政務官から以下のような挨拶があった。

松本政務官：

- ・地元・国分寺市で、国際宇宙ステーションに滞在する油井飛行士と子供たちが交信するイベントに参加した。こうした活動を通じて、次世代を担う子どもたちが宇宙活動の発展を担ってくれることに期待。
- ・宇宙システム海外展開タスクフォースの第1回上級会合に出席した。今後必要があれば具体的な案件獲得に向けてトップセールスに努めていく。
- ・年末の工程表改訂に向けて、中間とりまとめで指摘された事項を重点的に議論すべき。自分は防災担当の政務官も兼務しているが、リモートセンシング衛星を活用した広域的な災害状況把握は効果的。また、IoTやビッグデータなどを活用した新産業・新サービスの拡大に期待。
- ・宇宙政策をさらに進めるため、山口大臣の下、旗振り役をしっかりと果たしてまいりたい。

(1) 平成28年度概算要求における宇宙関係予算について

平成28年度概算要求における宇宙関係予算について事務局から報告いただいた。

(2) 宇宙安全保障部会、宇宙民生利用部会、宇宙産業・科学技術基盤部会からの報告

宇宙安全保障部会の審議状況について、資料2に基づいて中須賀部会長から報告を行った。宇宙民生利用部会の審議状況について、資料3に基づいて中須賀部会長から報告を行った。宇宙産業・科学技術基盤部会の審議状況について、資料4に基づいて山川部会長から報告を行った。主な意見等は以下の通り。

<宇宙安全保障部会>

- ・ 商用衛星の安全保障利用については、まだ宇宙安全保障部会では深く議論していないが、今後活発に議論してはどうか。

<宇宙民生利用部会>

- ・ 進展中のスペース・ニュー・エコノミー・創造ネットワークについて、具体的には10月後半にカンファレンスを開き、ベンチャーや投資家を集めたパネルディスカッションを行うことを検討中である。大企業も含め、やる気がある人のこうした活動を支援していく必要がある。

<宇宙産業・科学技術基盤部会>

- ・ ロケット部品に車載品が有望であるという議論が、部品戦略の検討会で取り上げられており、今後のロケット開発に向けて検討すべき課題である。

(3) 宇宙基本計画工程表改訂に向けた今後の進め方

宇宙基本計画工程表改訂に向けた今後の進め方について、まず事務局から提案があり、審議を行った。続いて、各部会における工程表改訂の方向性について各部会長から提案があり、審議を行った。審議の結果、資料5の「宇宙基本計画工程表改訂に向けた進め方（案）」、資料6の「宇宙安全保障部会における工程表改訂作業で検討すべき論点（案）」、資料7の「宇宙民生利用部会における工程表改訂作業で検討すべき論点（案）」、資料8の「宇宙産業・科学技術基盤部会において検討すべき事項（案）」は委員会として了承された。主な意見は以下の通り。

- ・ 宇宙状況把握（SSA）に関し、日本全体の取りまとめ機能、特に防衛省の役割を早急に検討すべき。
- ・ 衛星リモートセンシングに関し、先進光学・レーダ衛星は今年度、来年度にも開発に着手するところである。しっかり舵取りをするための評価をする必要がある。
- ・ 防災をはじめとしたリモートセンシング衛星の利用ニーズの深堀をしっかりとやっていくべき。実際に動く人、組織を同定し、効果のあるところから宇宙民生利用部会において検討を深めていくべき。
- ・ 調査分析・戦略立案機能の強化については、調査分析により得られる知見をしっかりと蓄積していくための組織作りの議論を深めていく必要がある。

(4) その他

宇宙に関する包括的日米対話第3回会合の結果及び宇宙システム海外展開タスクフォースの検討状況につき、事務局から報告を行った。

以上